

壮春 力歩

「やりがい」追求

会長 鈴木 末一



45名で呱呱の声を挙げて以来、早19年目を迎えます。発足以来今日まで自然を愛し、自然環境の保全に情熱を傾けて協働活動に勤しんでいただいている同志は、年々右肩上がり推移し180名に達しようとしています。会員数の増加に伴いまして、「ならやまプロジェクト」のウエートが、年々高まってまいりました。そのことは、毎週木曜日の定例活動日の参加者数の推移が示しています。20名前後からスタートしましたのが、今や80~90有余名という実態からも、そのことは明白であります。

2021年(令和3年)には、創立20周年という記念の節目の時を迎えます。この時に当たって、会の将来像、つまりあるべき姿を明確にしておくことが求められていると考えています。現状をつぶさに分析し、改革断行すべき課題を明確にしつつ、叡智を集めて解決に向け全力で取り組まなければなりません。

「みんな違って、みんないい」。そんな180の個性集団です。「知恵と経験は1万2千歳を超す」と「天声人語」の評価を受けました。この良識ある個性こそ当会のエネルギーです。心を合わせて、活動を通じて得られる「やりがい」を追求しようではありませんか。

こうは申しましたが、今は緊急事態宣言中です。私もささやかに緊急事態を体験しました。

峠が見えないコロナ禍、「3密もどこ吹く風やマスク列」で、ドラッグストアには、早朝からマスクを求めて行列。自分自身を、そして人と社会を守るために、今すぐ実行できることは、お互いの距離を一定以上保つ「ソーシャルディスタンス」です。スーパーでの買い物、病院の待合室など、人との距離を2m以上保つことです。周囲の人のことを守るのだという自覚が求められているのに…。

最近、ドラッグストアは、マスク販売を少しずつ解禁するようになりました。そこで私も先日入手に挑戦。1軒目には「入荷予定なし」の貼り紙。直ぐに別の店へ。すでに何人かの人が並んでいる。私は11人目。前回、「販売数は10個です」という表示を見て、残念無念と諦めて帰りました。ああ今日も駄目かと半ば諦めかけた時、入り口に「本日の販売数は11個です」との文字。ラッキー！それでも次々と客がやってきます。「私までのようですよ」と、店員さんになり代わって、開店までに二十数人の客に言葉をかけました。中には不機嫌そうに無言のまま立ち去る人もいました。人づてに聞いた話ですが、店員さんに憤懣をぶっつけて、悪態をつくような非常識な人もいたようです。マスクだ自粛だと、何をすることも窮屈で気持ちが塞がりがちで、息苦しい日々が続いているせいでしょうか。人の心が荒み始めています。

ドイツのメルケル首相が、新型コロナウイルス対策について演説した言葉が胸を突きました。「普段あまり感謝されない人々に感謝の言葉を贈らせてください」。困難な仕事を担っている人たちや医療現場で奮闘する人たちなどへの謝意を一言一句に滲ませていました。「不要な人などいません。全員の力が必要です」「私たちは民主主義社会です。強制ではなく知識の共有と協力によって生きています」優しい語りで連帯を呼び掛けました。説得力ある言葉と行動力は「リーダーシップの教科書」と評されています。

私自身のことを振り返ってみますと、最も欠如していたのが、このことではないかと、自省の念で一杯です。

さまざまことを感じさせてくれる緊急事態です。